

みんなの「みかた」 地域とつながる学校

若狭町立三方中学校

1 取り組みの概要

(1) 地域や家庭と学校の連携実績

項目	回数
地域・学校協議会	2回
中学校区を単位とした協議会	1回
地域及び家庭への学校公開	回(のべ) 8日

(2) 地域人材の活用

講師・ゲストティーチャー	28人
授業ボランティア(含:低ボラ)	15人
登下校支援ボランティア	0人
その他(部活動支援など)	29人

(3) 特色ある活動

テーマ 「ふるさと教育」

本校では、県立美方高等学校との中高一貫教育(連携型)の実践や、環境教育(持続発展教育)に取り組んでいる。推進にあたっては、町当局や地域の施設、企業をはじめ、本校卒業の大学教授やエコ改修の関係者、家庭・地域と連携した教育活動を行っている。

【具体的活動内容(環境学習のみ)】 GT:ゲストティーチャー

- 体験と実験:『エコスクールの熱のメカニズムを知ろう!』 GT 愛知産業大学准教授 宇野勇治氏
◎熱の伝わり仕組みを知り、建物の模型を使って室内の温度変化を調べる実験でその効果や特徴を考えることで、夏に涼しく、冬に暖かい建物をどうしたらつくれるのかをさぐった。
- フィールドワーク:『たどってみると!』 GT 滋賀大学准教授 市川智史氏
◎自然のつながりに気づき、自然保護の大切さを学んだ。(三方青年の家で宿泊)
- 夏季休業中の学習:「我が家の省資源、省エネルギー作戦」
1週間、電気と水道の使用量をチェックした結果を家族で確認し、気づいたことや感想を話し合い、使用量を減らすための作戦を考える。作戦を1週間実行しその効果を検証した。
- 講義・見学:『バイオマスって?』 GT 県二州農林部林業水産課主任 灰屋嘉康氏 他4名
◎ペレット燃料の使用が環境にやさしいまちづくりを進めることを学び、若狭町が自然再生を意識した環境政策の一つとして取り組んでいるバイオマスタウン構想について学んだ。
- 講義・観察『エコ改修の特徴を学ぼう』 GT 慶応大学教授 伊香賀俊治氏及び大学生(3名)
◎設計者の説明のあと、校舍改修によって生まれた効果を、デジタル温度計で床・天井・側壁などの温度を測定したり、サーモカメラを使ったりして「熱」にポイントをしばって学習した。
- 観察・講義:「若狭の海を知ろう」 GT 福井県海浜自然センター職員
◎ビーチコーミングとプランクトン観察を通して、若狭湾の海洋保護について学んだ。
- 講義・グループワーク:『三方五湖の現在・過去・未来』 GT 東京大学准教授 吉田丈人氏
◎三方五湖の生物多様性や、富栄養化などの水環境の劣化の仕組みについて知り、父母や祖父母からの昔の水辺についての聞き取りをもとに、自分たちがすべきことを考えた。



【成果と課題】

多くのゲストティーチャーを講師として招聘することができ、身近な問題を理論的に理解させ、視野を拡大することができた。その結果、持続可能な発展について考え、理解を深め、実践意欲を高めることができた。また、町行政の関係者や保護者の理解と協力が得られ連携関係が深まった。課題としては、探究的な学習をより進めるために単元計画を改善することが挙げられる。また、生徒が地域活動へ主体的に参加する機会を増やすことも課題である。